

差動式分布型感知器の熱電対及び接続線の接続方法

お買い上げありがとうございます。

正しくお使いいただくため、この説明書を大切に保管してください。



注意

熱電対を施工する時は必ず弊社製専用圧着工具をご使用ください。
一般工具で施工すると圧着が不完全で火災を検知できなくなる恐れがあります。
熱電対には極性があります。誤って接続すると火災を検知できなくなる恐れがあります。

1. 使用製品

- ・熱電対（NSY416CX：白色／NSY417CX：赤色）
- ・接続線（NSY419B）
- ・接続線メッセンジャーワイヤー付（NSY420）
- ・銅スリーブ（NSY421A）
- ・ビニールスリーブ（NSY426WA：白色／NSY426RA：赤色）

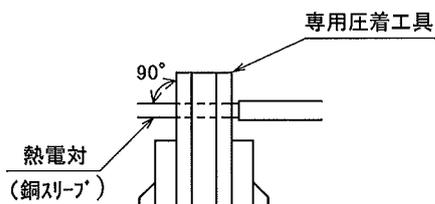
2. 使用工具

- ・熱電対専用圧着工具（NSY906）
- ・ヘアードライヤー（市販品）

3. 接続方法

圧着を行うときの注意

熱電対（銅スリーブ）を専用圧着工具の溝に合わせ、熱電対（銅スリーブ）と専用圧着工具を直角にして圧着を行ってください。

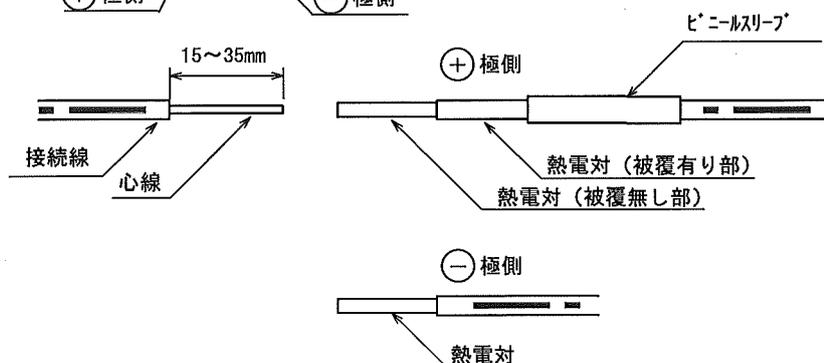


■熱電対と接続線を接続するとき

1. 接続線の被覆を剥ぐ

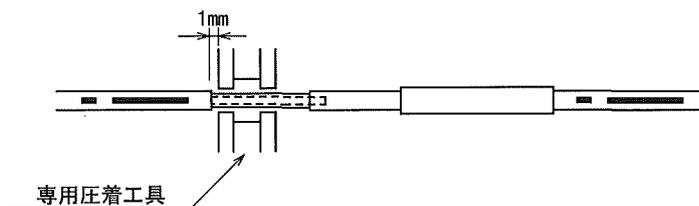
- ・接続線の被覆を剥ぐときは必ずワイヤーストリッパーを使用してください。
- ・接続線の心線に歪みが無いよう加工してください。

2. 熱電対と接続線には の極性表示がしてあります。誤りのないよう十分に注意してください。



3. 圧着作業

接続線を熱電対に挿入し、専用圧着工具の側面から1mm熱電対が見える位置で圧着してください。
(本図は片側のみ示したものです。反対側についても同様に圧着してください。)

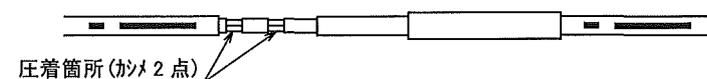


4. 圧着仕上がり外観図

圧着後、圧着状況を確認してください。

※圧着は1箇所としてください。

※NSY906 熱電対専用圧着工具で1箇所圧着すると、2点同時にカシメられます。



5. 完成外観図

熱電対被覆無し部分にビニールスリーブを移動させ、ヘアードライヤー等の温風でビニールスリーブを収縮させてください。

※決して直火(ライター)等を使用しないでください。

※他の方法で収縮させるときは、被覆に焼損などが無い様注意してください。

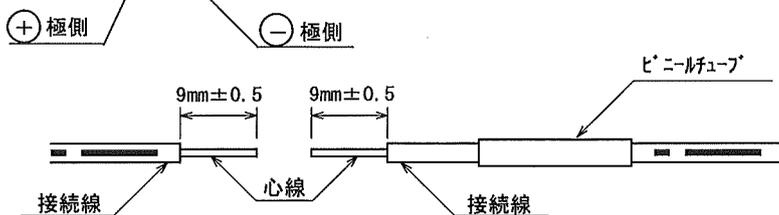


■接続線と接続線を接続するとき

1. 接続線の被覆を剥ぐ

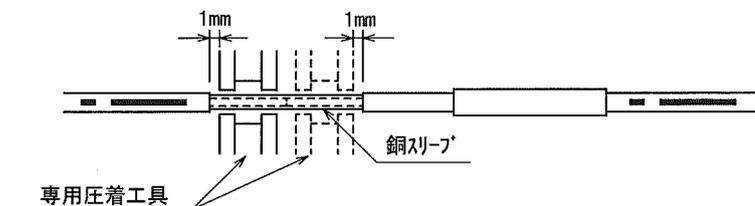
- ・ 接続線の被覆を剥ぐときは必ずワイヤーストリッパーを使用してください。
- ・ 接続線の心線に歪みが無いよう加工してください。

2. 接続線には の極性表示がしてあります。誤りのないよう十分に注意してください。



3. 圧着作業

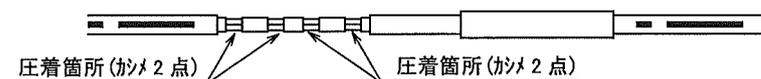
接続線を銅スリーブに挿入し、専用圧着工具の側面から1mm熱電対が見える位置で圧着してください。



4. 圧着仕上がり外観図

圧着後、圧着状況を確認してください。

※NSY906 熱電対専用圧着工具で1箇所圧着すると、2点同時にカシメられます。



5. 完成外観図

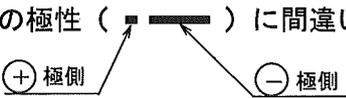
銅スリーブの上にビニールスリーブを移動させ、ヘアードライヤー等の温風でビニールスリーブを収縮させてください。

※決して直火（ライター）等を使用しないでください。

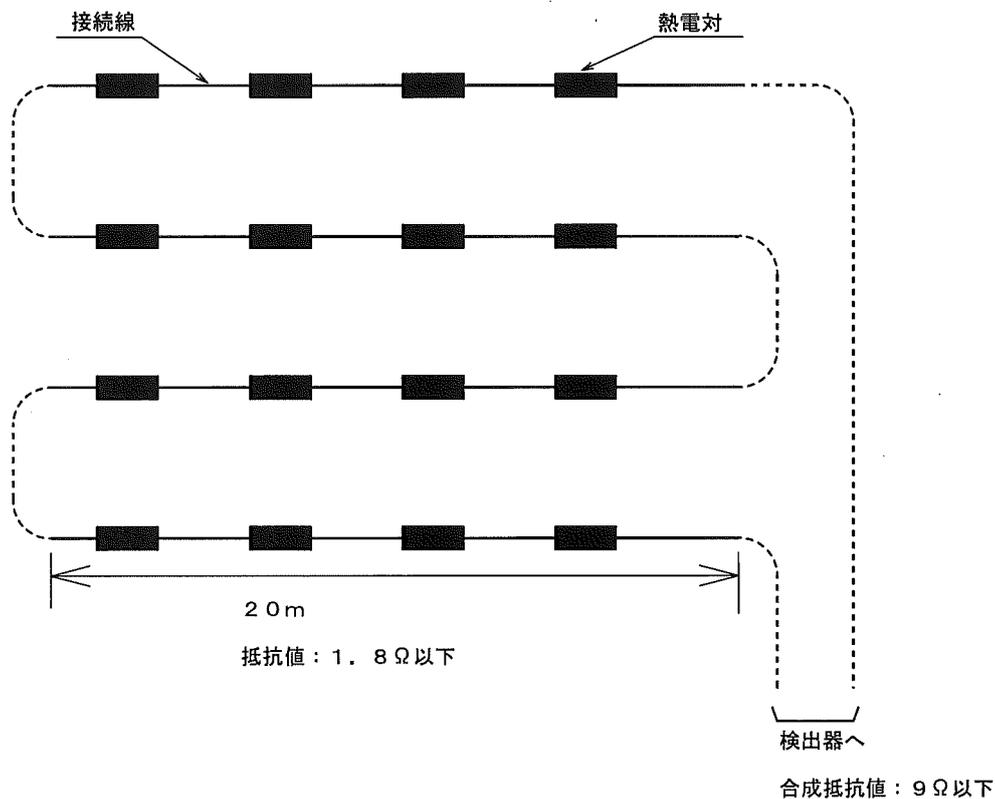
※他の方法で収縮させるときは、被覆に焼損などが無い様注意してください。



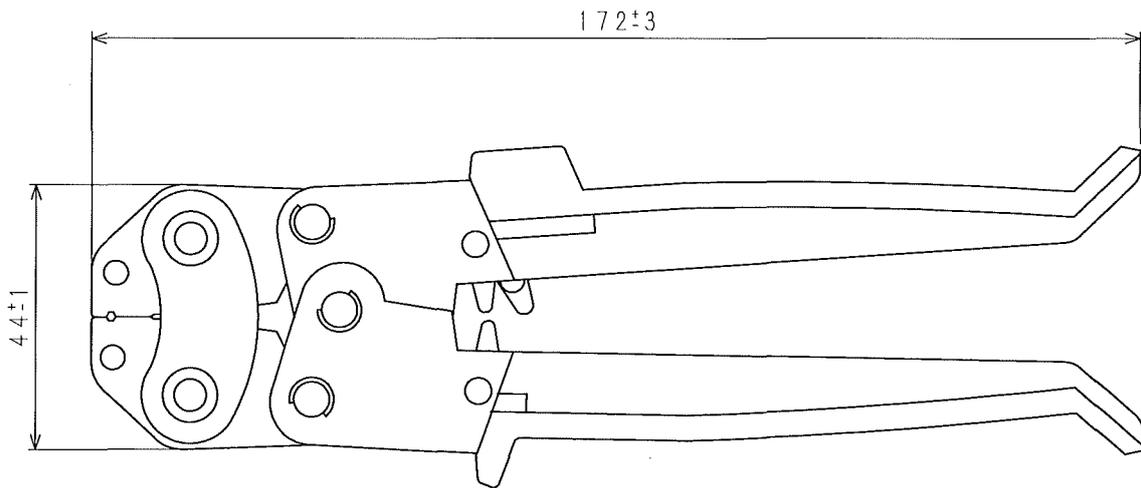
■接続後の確認

1. 接続した熱電対，接続線の極性（) に間違いが無いか確認してください。

2. 熱電対，接続線を一定長（天井に張る長さ等）に接続した後、合成抵抗値を確認してください。
全体の合成抵抗値をテスターで測定し、 $9\ \Omega$ 以下であることを確認してください。



上図は20m長を4本で1回路を構成する場合の例です。
20m長1本の両端の抵抗値はテスターで測定し、1.8Ω以下であることを確認してください。
また、全体の合成抵抗値が9Ω以下であることを確認してください。



仕 様			そ の 他		
適合熱電対	NSY416CX, NSY417CX		1. 本品は、熱電対工事に使用する圧着工具です。 2. 差動式分布型感知器（熱電対式）の熱電対部及び接続線の接続は本品に添付されている取扱説明書にもとづき行って下さい。		
適合銅スリーブ	NSY421A				
圧着径	1.5mm 六角2点同時カシメ				
圧着幅	7.2mm				
質 量	270g				
			改	日本ドライケミカル株式会社	
品番	NSY906	品名	熱電対専用圧着工具		函番 1YM-7011-5/5